

最終更新日	2011年(平成23年)3月14日
-------	-------------------

校番 62	福山市立大谷台小学校
-------	------------

1 学校教育目標

人間性豊かに生き抜く児童の育成

2 経営理念

(1) 地域社会における自校の使命(ミッション)

知・徳・体のバランスのとれた教育を推進し、智(やる気)、健(げん気)、愛(やさしい心根)をもった子どもを育てる。

(2) 使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像(ビジョン)

学校力、教師力を向上させ、それを通して子どもたちの人間力を育てる。
学校力(教師の授業力、すぐれた教育計画、効率的な学校運営)
教師力(確かな授業力、組織的な職務遂行能力)
人間力(知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」)

3 自校の現状分析

「計算力、漢字力の基礎学力」や「英語活動に慣れ親しみ、楽しく学習に取り組むこと」については、保護者アンケートや児童の自己評価等の分析を通して、概ね目標を達成することができた。しかし、年度末の学力調査(CRT)の結果によると、特に、読解力や思考力に課題が見られた。今後は、授業改善計画に則り読解力や思考力をアップさせる指導の工夫をしていく。
また、国際理解教育では、豊かな伝え合いができるように、授業や活動場面等での工夫をしていく。
「日本一宣言」に係る読書の充実を図ることについては、昨年度、一人年間60冊以上は、100%達成することができた。本年度は、読書活動の環境整備をしながら、読書活動の内容・充実の工夫に努め、一人年間70冊以上の達成をめざしていく。
昨年度、50mRUN等の走力を中心とした体力づくりに取り組み、72%の児童が市平均を上回り、概ね目標を達成することができた。本年度は体力づくりの継続と食育に関する取り組みを進めていく。
講師等を招聘し、全員2回の授業研究を行った。また、研修に参加しレポート作成による校内への還元も行った。特に、校内授業研修の充実を図り、専門家としての確かな力量を身につけていく。
服務規律に係る研修については、計画的・継続的に行っているが、今後も継続していく。また、昨年度同様に、保護者や地域等に学校の情報をわかりやすく発信していく。

4 研究主題

(1) 研究主題

豊かなコミュニケーション能力を身につけた子どもの育成
～ 国際理解教育を通して ～

(2) 研究指定

指 定	事 業 名 等	期 間
市	福山市教育研究支援事業(国際理解教育)	3年間

5 今年度の重点目標と設定理由

重 点 目 標	設 定 理 由
国際理解教育における「伝え合い」を大切に授業の工夫	コミュニケーションの基本は自分の考え、思いや願いを相手に伝え合うことである。そのために、国際理解教育の推進や授業における活動場面等での工夫をすれば、一人一人の児童の表現力をさらに高めることができると考える。

6 評価基準

評価・指標評価	基 準	
A・a	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた
B・b	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた
C・c	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた
D・d	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
E・e	40%未満の達成度	目標を達成できなかった

・ 自己評価(中間)の基準は、10月20日までの計画に対する達成状況とする。

7 目標・評価項目・指標等の設定と評価

市重点 目標	年 目	中期経営目標	重 点	分類	短期経営目標	(最終) 評価	評価項目・指標等 (成果 取り組み 成果と取り組み に着目)	(最終) 指標 評価	評価項目・指標等 改善方針	短期(中期)経営目標 の達成状況																		
確 かな 学 力	1	学習意欲の向上 と基礎学力の定 着をはかる		新規	数学的な思考力の向上 を図る	B	1単元に1回は自力解決の場を設定する。	a	各学年1単元に1回は自力解決の場を設定することができた。 毎月の一斉テストの平均通過率は、次の通りである。 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td> </tr> <tr> <td>70.5</td><td>73.3</td><td>76.3</td><td>82.9</td><td>82.7</td><td>78.7</td><td>73.1</td><td>70.1</td><td>80.0</td> </tr> </table> 毎月の校内一斉テストの結果を分析・交流する中で、全学年、モ ーニングタイムを活用し、文章問題に仕組み改善している。学年 末の学力調査で5ポイント上回った学年は3学年にとどまった。 来年度も継続して取り組み、学年差を解消していく。 数学的な考え方の平均通過率は76.4%であり、指標の数値を やや下回った。また、月による差が大きく定着できていない。 自力解決の場を設定するとともに、個に応じた指導を継続的に行 い、思考力の向上に取り組んでいく。また、問題内容の検討や指 導法の研修等を継続的に行っていく。	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	70.5	73.3	76.3	82.9	82.7	78.7	73.1	70.1	80.0	
							4月	5月		6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月												
							70.5	73.3		76.3	82.9	82.7	78.7	73.1	70.1	80.0												
	毎月の一斉テスト(数学的な考え方)の通過 率を80%以上にする。	b																										
	毎月のテスト内容・結果を分析・交流し改善 のてだてを考えて、翌月の指導に活かす。 学年末実施の学力調査の数学的な考え方の項目 の通過率を5ポイントアップさせる。	b																										
	3	豊かなコミュニ ケーション能力 を身につけた児 童を育成する	見直し	国際理解教育を中心に 伝え合う力を育てる	A	全校集会(フレンドリータイム)でコミュニ ケーション活動を学期に1回設定する。	a	7月、12月、3月のフレンドリータイムでゲーム等を通して、 コミュニケーション活動を実施することができた。 全員が2回は授業研究を行った。任意研修や公開研究会に1回以 上は参加し、レポート報告を行った。 1学期末のアンケート結果は、児童99%、保護者87.2%、 2学期末のアンケート結果は、児童99%、保護者94.3%、 の肯定的評価であり、設定数値を大きく上回った。 国際理解教育の研修を10回以上実施し、講師を招いての研修も 行った。「伝え合い」を大切にされた指導案の検討と授業の工夫等 についての研修を行い、短期経営目標を達成することができた。 今後も「伝え合い」を大切に、コミュニケーション能力を高め る授業の工夫を継続して行う。また、評価のあり方等についての 研修をさらに深めていく。																				
担任全員が2回以上は授業研究を行う。研究 主題に関わる研修や公開研究会等に一人年1 回以上参加し、レポート報告をする。						a																						
学期末に児童・保護者にアンケートを実施・ 分析し、改善のてだてを考えて、次学期の指導に 活かす。アンケートの全項目の肯定的評価を 80%以上にする。						a																						

(管理規則第3条実施要領 別紙様式)

市重点目標	年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	(最終)評価	評価項目・指標等 (成果 取組み 成果と取組み に着目)	(最終)指標評価	評価項目・指標等 短期(中期)経営目標の達成状況 改善方策											
豊かな心	3	やさしい心根を育成する	見直し		進んで読書活動する児童を育成し、本を読んで感じたことを表現できる機会を増やす	B	1人年間学年課題図書15冊以上を含む70冊以上の読書をする。	c	1月末の調査結果は、次の通りである。 一人年間70冊以上の読書・・・76%課題図書15冊以上・・・66% 児童一人年間1回のお薦めの本の紹介や感想を発表することができ、達成することができた。 2学期末の「読書が楽しい」項目のアンケート結果は、児童96%、保護者74%の肯定的評価であった。1学期末より、ほぼ10%上回った。 読書感想文を昼の放送で発表したり、新しい本の紹介をしたり図書館だよりをだしたり、東部図書館で本を借りたりして読書意欲を高めることができた。 中期目標の「やさしい心根を育成する」については、保護者アンケートによる「読書を通して心豊かな児童が育っている」という感想も多く見られ、達成に近づいている。 教師が課題図書のねらいを明確にしてもっと読ませる工夫をしていく。											
							児童1人年間1回は、お薦めの本の紹介や感想の発表を行う。	a												
							月に1回はボランティア・図書委員会等による読み聞かせを行い、学期末に児童・保護者にアンケートを実施し「読書が楽しい」のアンケート項目の肯定的評価を80%以上にする。	a												
	1	規律3要素の徹底をはかる	新規	「相手の目を見て」「大きな声で」「笑顔で」挨拶ができる児童を育てる	B	毎月、挨拶強化週間を設定し、生活がんばりカードの記入と振り返りを行い、児童の意識を向上させる。	b	毎月、挨拶強化週間を設定し、児童会がめあてを書いたタスキをかけて、挨拶をしたり、よかった登校班を放送で知らせたりして意欲づけができた。 2学期末の児童・保護者アンケートによる肯定的評価結果は、次の通りである。												
						学期末に児童・保護者・地域にアンケートを実施し、3つの全項目の肯定的評価を70%以上にする。	a	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>児童</th> <th>保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>相手の目を見て</td> <td>91.7%</td> <td>83.2%</td> </tr> <tr> <td>大きな声で</td> <td>88.0%</td> <td>79.7%</td> </tr> <tr> <td>笑顔で</td> <td>66.9%</td> <td>64.8%</td> </tr> </tbody> </table> 短期経営目標の「笑顔で」挨拶の項目だけが指標数値を下回った。引き続き、振り返りカードの効果的な活用等を考え、職員が率先垂範しながら下回っている項目の評価を上げていく。		児童	保護者	相手の目を見て	91.7%	83.2%	大きな声で	88.0%	79.7%	笑顔で	66.9%	64.8%
	児童	保護者																		
相手の目を見て	91.7%	83.2%																		
大きな声で	88.0%	79.7%																		
笑顔で	66.9%	64.8%																		
健やかな体	1	健康・体力づくりを推進し、たくましく生きる児童を育成する	新規		食べ物に関心を持って楽しく給食を食べることができる児童を育てる	A	月1回は、担任が給食を中心とする食を取り上げた指導を行う。	a	給食指導用資料や食育だよりをもとに、食について継続的に指導することができた。 PTA教育講演会で、「食育劇」をもとに全学年の懇談会で「食の大切さ」などを話し合うことができた。 2学期末の児童アンケートによる肯定的評価結果は次の通りである。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>児童</th> <th>保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>食に関心をもつ</td> <td>73%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>楽しく給食を食べる</td> <td>93%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 給食放送や食育だよりをもとに食物に関心を持たせ、楽しく給食を食べることができた。 食育について、各学年の教科等と関連づけ、計画的な学習をしていくとともに、懇談会の充実を図っていく。		児童	保護者	食に関心をもつ	73%		楽しく給食を食べる	93%			
								児童		保護者										
							食に関心をもつ	73%												
楽しく給食を食べる	93%																			
年1回は、学級懇談会の議題として「食」について取り上げる。	a																			
学期末に児童にアンケートを実施し、「食に関心をもつ」「楽しく給食を食べる」の項目の肯定的評価を80%以上にする。	b																			

(管理規則第3条実施要領 別紙様式)

市重点 目標	年 目	中期経営目標	重 点	分類	短期経営目標	(最終) 評価	評価項目・指標等 (成果 取組み 成果と取組み に着目)	(最終) 指標 評価	評価項目・指標等 短期(中期)経営目標 の達成状況 改善方策																
力量 ある 教 職 員	1	専門家としての 確かな力量を高 める		新規	「わかる」「できる」「楽 しい」授業の工夫と改善 を図る	A	ノート指導について全体研修を年間5回実施 する。	a	4月, 6月, 7月, 8月, 1月にノート指導の全体研修を実施 し, 指標を達成することができた。 自分の考えをノートに書ける児童の割合は次の通りであった。 <table border="1"> <tr> <td>7月</td> <td>9月</td> <td>10月</td> <td>11月</td> <td>12月</td> <td>1月</td> </tr> <tr> <td>92.9</td> <td>81.2</td> <td>80.8</td> <td>81.5</td> <td>86.3</td> <td>85.2</td> </tr> </table> 平均通過率は84.6%で, 指標を達成することができた。 1学期末のアンケート結果は, 児童90%, 保護者91%, 2学期末のアンケート結果は, 児童83%, 保護者93.4%, の肯定的評価であり, 十分に達成できた。 ノート指導, ノートに書ける児童の割合, アンケート結果より, 短期経営目標は十分に達成できた。 今後は, 自分の考えの書き方, 表し方等の具体的な指導法につ いて検討していくとともに, 具体物や操作活動を取り入れる 等, わかる授業の工夫を行っていく。	7月	9月	10月	11月	12月	1月	92.9	81.2	80.8	81.5	86.3	85.2				
							7月	9月		10月	11月	12月	1月												
							92.9	81.2		80.8	81.5	86.3	85.2												
自分の考えをノートに書ける児童の割合を 80%にする。	a																								
学期末に児童・保護者にアンケートを実施・ 分析し, 改善のてだてを考えて, 次学期の指導に 活かす。授業が「わかる」「できる」「楽しい」 のアンケート項目の肯定的評価を80%以上に する。	a																								
市 民 か ら 信 頼 さ れ る 学 校	2	教育公務員 としての自覚と 使命感を高め る		見直し	教職員の規範意識を 高める	A	演習を取り入れ, 自己変革等効果的な研修を 学期に1回以上行う。	a	7月に「セクシュアル・ハラスメント」, 10月に「携帯電話 メールのわいせつ・体罰」, 2月に「体罰事案」に係る資料の 活用やロールプレイや演習を取り入れ, 工夫した研修を実施す ることができた。 2学期末の教職員アンケート5項目の肯定的評価結果は次の 通りである。研修内容・100%, 主任・主事が講師・81.9% 資料は効果的・91.2%, 演習等の研修・91.2%, 子ども・ 保護者・地域の信頼に応える・100% 2つの評価項目・指標等により, 教職員一人一人の規範意識を 高めることができ短期経営目標は概ね達成することができた。 今後も, 不祥事ZEROをめざし, 時宜を得た研修等を行っていく。																
							研修後に職員アンケートを実施, 効果に係る 肯定的評価を80%以上にする。	a																	
	1	地域・保護者と双 方向連携をはか る		新規	計画的な情報発信によ り, 学校の教育内容を知ら せ, 地域・保護者の協 力を得る	A	学校・学級の教育内容や活動が分かるように 内容の工夫を行い, 学校だよりは年間30回以 上, 学級だよりは年間20回以上発行する。	a	1月末までに, 学校だよりは27回まで発行。学年だよりは, 4, 6年以外の学年はすでに20回以上発行している。 <table border="1"> <tr> <td>学年</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>学校</td> </tr> <tr> <td>号数</td> <td>66</td> <td>20</td> <td>20</td> <td>17</td> <td>22</td> <td>14</td> <td>27</td> </tr> </table> 1月末のホームページの更新状況は, 学年の窓は27回, 近況 報告は14回更新した。 1月末までの平均参加率は, 授業参観87%, 懇談会54%で あった。アンケートによる肯定的評価は7月が92.8%, 1 2月は94.4%であった。 学校からの計画的な情報発信ができ, 85%以上の肯定的評価 があり, 指標の設定数値をほぼ達成できた。 保護者の参加や協力が得られるよう広報活動等を継続的に行っていく。	学年	1	2	3	4	5	6	学校	号数	66	20	20	17	22	14	27
							学年	1		2	3	4	5	6	学校										
							号数	66		20	20	17	22	14	27										
	ホームページ閲覧のPR活動を行い, 更新で は, 「学年の窓」は月当たり3学年, 「近況報告」 は月当たり1回以上行う。	a																							
授業参観80%・懇談会60%の参加率にす る。アンケートの情報発信項目の肯定的評価を 85%以上にする。	b																								

(管理規則第 3 条実施要領 別紙様式)